

『本物の救いについて』

'21/06/06

聖書箇所: マルコの福音書 10 章 23-31 節 (新約 p.86-)

今日も、先週に続けて…、この聖書のみことばが教えてくれている、最も大切な事柄である「救い」について学んでいきます。皆さん、覚えてくださっていますよね？…まず、この少し前、イエス様のところに、自分たちの小さな子どもたちを祝福してもらおうとして、何人かの者たちがイエス様のところへやって来ました。すると、それをイエス様の弟子たちが快く思わなかったため、それに対して、イエス様は、激しく叱られて…、それをきっかけに、イエス様が、「一体、どういった者たちが、神の国に入ることができるのか？」…つまり、救いについて、イエス様が教えてくださったのです。

その後すぐ、そこに、ある金持ちの青年役人がやって来ました。彼は、イエス様に対して、『**尊い先生、永遠のいのちを自分のものとして受けるためには、私は何をしたらよいでしょうか。**』(マルコ 10:17) という質問を投げかけます。しかし、先週学んだように、この青年役人は、イエス様が彼に与えたチャレンジをクリアすることができず…、悲しみながら、そこを立ち去って行きました…。

命題: 永遠のいのち(=本物の救い)について、ご一緒に考えましょう！

今日、私たちが学んでいこうとしているみことばは、その直後に、イエス様と弟子たちが、そこを立ち去っていった青年役人について交わした会話が中心になっています。…ですから、前回学んだみことばと、今回私たちが学ぼうとしている、聖書のみことばとは繋がっております。…なので、本当は、先週の礼拝で、ここまでのみことばを一気に学びたかったのですが、時間的な制約もあって、叶いませんでした…。そこで、今日は、簡単に、前回に学んだみことばも復習しながら…、イエス様が教えてくださった、永遠のいのち…、つまり、本物の救いについて、ご一緒に学んでまいりましょう。

そうすることによって、願わくは、今日このメッセージを聞いてくださった皆さんが、ますます、救いについて、正しく知ることができて…、この永遠のいのちを自分の物として受けることができるだけでなく、イエス様のことを一番に愛する者として、神様のみこころに沿って、生きていくことができることを願います。

I・救いを得ることは、決して、**簡単**ではない！(23-25 節)

どうぞ、まずは、今日のみことばの内、23-25 節に注目していきましょう。ここで、イエス様は、私たち人間が救いを得ることは、決して、“簡単”ではない！ということをおっしゃっています。23-25 節には、このように記されてあります。

23 イエスは、見回して、弟子たちに言われた。「裕福な者が神の国に入ることは、何とむずかしいことでしょうか。」

24 弟子たちは、イエスのことばに驚いた。しかし、イエスは重ねて、彼らに答えて言われた。「子たちよ。神の国に入ることは、何とむずかしいことでしょうか。」

25 金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。」

●「神の恵み」と「救いの結果」との相違

どうぞ、皆さん…。まずは、神が私たち人間に与えてくださる恵みと、救いの“結果”との違いについて、確認していきましょう。…ここでイエス様は、23 節、「裕福な者が神の国に入ること…、つまり、救われることが、如何に難しいことか…」という趣旨のお言葉を発せられました。…と言いますのも、先週の礼拝で学んだ、あの青年役人は、多くの財産を持っていたがゆえ…、その財産を手放すことができずに、イエス様のところから立ち去っていったからです。

皆さん、ご存知でしょうか？…実は、この当時、多くのユダヤ人たちは、「裕福な者たちが金銭的に満たされているのは、神様が、その者たちを祝福してくださっているからだ…」というような考えを持っていたのです。…例えば、多くのユダヤ人たちが「信仰の父」と慕っている、あのアブラハムは、たくさんの財産を持っておりましてしょ？…また、あの義人ヨブは、数々の試練の後、かつての持ち物を2倍に増やされたでしょ？(ヨブ記 42:7-12)

彼らだけではありません…。天の神様は、時々、恵みとして…、ある者たちに、たくさんの財産、あるいは、健康…、あるいは、特殊な才能、あるいはまた、長寿やこの世での名誉？成功？といったような…、素晴らしいものを与えてくださっています。皆さんだって、そうじゃありません？…このように、天の神様は、一人ひとりに違った…、「神からの恵み」というものを与えてくださっているのです。

しかし、それらは皆、信仰とは別に、神様から託された“恵み”であって…、救われた“結果”、あるいは、救われたことの“証拠”ではありません。そうでしょ？…だから、私たちは、一概に、裕福な人たちは皆、救われている…、あるいは、健康で長寿を全うした人たちは救われている、とは考えないわけです。

しかし、この当時、一部のユダヤ人たちは、裕福な者たちを見て、「彼らが裕福なのは、神様が彼らのことを祝福してくださっているからだ…」と考える傾向にあったのです。…例えば、皆さんも、よくご存知だと思います。ヨハネ伝 9 章には、生まれつきの盲人が居て、イエス様の弟子たちは、「この人が盲目で生まれたのは、誰が罪を犯したからですか？」みたいなくだりがありますでしょ？…そのように、この当時の者たちは、病気や貧困などは神様の裁き…、健康や裕福は神様からの祝福であるという風に、安直に考えてしまう傾向にあったのです…。

だから、イエス様は、ルカ伝 16 章で、金持ちが救われず、「苦しみ場所」へ下って行ってしまったのに、貧しかったラザロが「アブラハムのふところ」…、つまり、救われたのですよ、という話をするので、「神様の救いと、金銭的な恵みや健康とは、直接関連が無いのです」ということを教えてくださったわけなのです。このように、私たちは、神様が与えてくださったものではあるけれども…、信仰とは直接関係の無い「恵み」というものと、私たち人間が本当に救われた「結果」として現われてくるような変化とを混同しないように気を付けたいといけません。…じゃあ、私たちが救われた結果、私たちに起こってくるような「変化」については、今日のメッセージの3番目のポイント…、その後半部分で紹介していきたいと思えます。

●人が、自分の力で救われることの難しさ

では、どうぞ、もう1度、今日のみことばの 23-25 節に注目してみてください。ここで、イエス様は、どんなことを弟子たちに教えてくださっています？⇒一言で言うと、「救われることの難しさ」…、つまり、如何に、私たち人間が、自分たちの力や努力では救われ得ないか！ということではないでしょうか？

どうぞ、もう1度、この 23 節に注目してみてください。…ここで、イエス様は、ついさっき、そこを立ち去っていった青年役人をイメージして、「裕福な者が神の国に入る事が難しい」ということをおっしゃいます。そのイエス様のお言葉を聞いて、弟子たちは驚きます。…と言いますのは、先程言ったように、この当時は、どちらかと言うと、裕福な者たちの方が救われている確率が高かったからです。当時は、多くの者たちが、そう理解していたからです。

それを聞いて、イエス様は、こう続けられます、『…**神の国に入ることは、何とむずかしいことでしょうか。**』…って…。皆さん、気付いてくださいました？…ここ 24 節で、イエス様は、23 節のお言葉から、「裕福な者が…」という部分を削って、「救われることが難しい！」という主張を、金持ちだけでなく…、すべての人類に当てはめておられますでしょ？

そして、25 節で、イエス様は、『**金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。**』とおっしゃって、もう1度、金持ちが救われるということが如何に難しいか、という主張を繰り返しておられるでしょ？…実は、このみことばに出てくる『**針の穴**』という説明に関して、私が昔に読んだ、ある注解書(今は不明)には、「ここで言われている針の穴というのは、実際の、数ミリしかない針の穴のことではなく、この当時にあった、針の穴という名前の小さな門のことである…」という風な説明を読んだことがあります。

しかし、恐らく、その注解は間違いです。…ここで、イエス様がおっしゃっておられるのは、本物の「針の穴」のことであって…、この例えを通して、イエス様は、如何に、私たち人間が救われることが難しいか、ということをおっしゃっているのです。

ちょっと、ここで、ヤコブ 2 章のみことばを引用させていただきます。ここで、主の兄弟ヤコブは、神様の基準が如何に高いかということの説明するために、こんなことを教えてくれています。『8 もし、ほんとうにあなたがたが、聖書に従って、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」という最高の律法を守るなら、あなたがたの行いはりっぱです。9 しかし、もし人をえこひいきするなら、あなたがたは罪を犯しており、律法によって違反者として責められます。10 律法全体を守っても、一つの点でつまずくなら、その人はすべてを犯した者となったのです。11 なぜなら、「姦淫してはならない」と言われた方は、「殺してはならない」とも言われたからです。そこで、姦淫しなくても人殺しをすれば、あなたは律法の違反者となったのです。』(ヤコブ 2:8-11)

⇒皆さん、聞いてくださいました？…このみことばが教えてくれていることは、私たちが造られた神様の基準は、「完全」だということです。しかも、この神様の基準というものは、愛という分野においても…、公平さという分野においても、清さという分野においても、すべての点において、達成されなければならない！のです。…ひょっとしたら、私たちは、普段、50 点とか、80 点という合格ラインを決めて、それを基準に合格や不合格などを決めてしまっているから、こういったことがあまりイメージできないのではないのでしょうか？…つまり、天の神様の基準は、一点の曇りが無いような 100 点満点しか合格じゃない！というのです。しかも、毎回毎回…、すべての科目…、小さい頃からすべての行動、すべての選択、すべての考えにおいて、100 点満点じゃないと、決して、合格できないというわけです。

正直、そんなことは不可能でしょ！ 一体、誰が、この神様から「合格点」を戴けるのでしょうか？…そんな者は、どこにもおりません！…だから、私たち人間は行ないによっては、決して救われ得ないのです！…そういったことを、あの金持ちの青年役人も、また、私たちも気付かないといけなかったのです…。

II・救いとは、ただ、神の御業である！(26-27 節)

どうぞ、今度は、今日のみことばの内、26-27 節に注目していきましょう。このみことばが教えてくれていることは、**私たちが救えるのは、ただ、神様の“御業”だけである！**ということです。マルコ 10:26-27 には、このように記されています。

26 弟子たちは、ますます驚いて互いに言った。「それでは、だれが救われることができるのだろうか。」
27 イエスは、彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことですが、神は、そうではありません。どんなことでも、神にはできるのです。」

●弟子たちの疑問

ここには、イエス様の弟子たちが発した“疑問”について記されています。彼らは、ますます驚いて、互いに、こう言ったとあります、『**それでは、だれが救われることができるのだろうか。**』って…。それは、その

通りです。…でも、それで良いのです！ イエス様のおっしゃることを正しく理解できた者たちは皆、間違いなく、こういう反応を示すはずだからです。

皆さん、覚えてくださっています？…例えば、イエス様は、ここに至るよりも、ずっと前…、あの「山上の説教」の途中で、こんなことをおっしゃいました。**マタイ 5:20、『まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでないなら、あなたがたは決して天の御国に、入れません。』**って…。つまり、イエス様は、はっきりと断言されたのです、「律法学者やパリサイ人程度の評価では救われ得ない！」って…。そうでしょ？

つまり、この時の弟子たちからすると、律法学者やパリサイ人たちでも救われていない…。また、金持ちも救われるのが難しい…。じゃあ、一体、誰が救われているのか？…今日のみことばは、まさしく、そういったような…、弟子たちの本音と言うか、彼らの疑問が出てきたようなシーンだと思われれます。

でもね、皆さん…。私たちは皆、まず、こういったことに気付かされないといけないのです！…じゃないと、先週学んだ、あの裕福な青年役人が、『**…永遠のいのちを自分のものとして受けるためには、私は何をしたらよいでしょうか。**』(マルコ 10:17)と、イエス様に尋ねたように、私たちは、自分の行ないや努力で救われ得ると勘違いしてしまうからです。…そうじゃありません？まさしく、イエス様は、そういったことを弟子たちや、私たちに気付かせるために、こういった言い方をしてくださったのです。

●真の神は、全能である！

「私たちが人間の努力や行ないでは、決して、誰も救われ得ない…」そういったことに気付かされるからこそ、私たちは、神様にすがろうとするわけです。…と言いますのも、真の神様は、“全能”なる御方…、どんなことでも御出来になるからです！

だから、旧約聖書の**エレミヤ書 32:27** には、こう記されています、『**「見よ。わたしは、すべての肉なる者の神、【主】である。わたしにとってできないことが一つでもあろうか。」**』って…。確かに、私たち人間は、自分自身を救うことができません。でも、だからこそ、私たちは、神様に期待し…、神様にすがろうとする必要があるのです。

先週、私は礼拝メッセージの中で、この金持ちの青年役人には、「**選択と責任**」があったということをお話ししました。…と言いますのは、イエス様が、この役人に、「わたしについて来なさい！」と言って、その選択を、彼に迫られたからです。…私たちには、イエス様を信じるか否か、このイエス様について行くか行かないかの選択があるのです。…これは、私たち人間から見た…、救いに関する1つの観点です。

…と同時に、聖書のみことばには、神様からの視点についても記されています。例えば、エペソ 1:4 のみことばがそうです。そこには、「すべてを御存知の神様が、私たちが生まれる…、はるか以前から、私たちがイエス様を信じて救われることを決めておられた…」ということが記されています。…このように、天の神様は、すべてのことが可能だけじゃない。すべてのことを御存知なのです。

でも、だからと言って、私たちが、様々なことの責任から逃れられるわけじゃありません。神様は、私たちが、神様のみごころを知って、そのみごころに沿って歩むことができるように、このように、聖書のみことばを私たちに与えてくださっています。また、イエス様を信じる私たち一人ひとりに、“神様のみごころ”というものを示して下さるだけじゃない。弱く、愚かな私たちのために、助け手なる聖霊を用いて、私たちを導いてくださっているのです。…このように、天の神様は、私たちのことをすべて御存知で、私たちに必要な導きや助けを与えてくださっています。だから、私たちは、「これはムリだ！私にはできっこない…」とは言い得ないのです。

Ⅲ・本当に救われた者たちの「生き方」！(28-31 節)

では、最後に、今日のみことばの 28-31 節が教えてくれている、**本当に救われた者たちの「生き方」**について学んでいきましょう。そこには、こう記されてあります。

28 ペテロがイエスにこう言い始めた。「ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。」

29 イエスは言われた。「まことに、あなたがたに告げます。わたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、畑を捨てた者で、

30 その百倍を受けない者はありません。今のこの時代には、家、兄弟、姉妹、母、子、畑を迫害の中で受け、後の世では永遠のいのちを受けます。

31 しかし、先の者があとになり、あとの者が先になることが多いのです。」

●弟子たちの 献身

今読んだ 28 節で、ペテロが、こう言います、『ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。』って…。と言いますのは、ついさっき、自分の財産を惜しんで、金持ちの青年がイエス様の招きに応えることなく、そこを立ち去っていったからです。「私たちは、あの青年とは違います！私たちは、イエス様からの招きに従って、何もかも捨てて、あなたに従ってきましたよね？」ということ、ペテロは言うわけです。それと実は、今日の並行箇所であるマタイ伝 19 章を見ると、もう少し詳しく記されてあって、『…私たちは何がいただけるでしょうか。』(マタイ 19:27)という言葉が付け加えられています。

ペテロだけじゃありません。恐らく、その他の弟子たちも皆、ペテロと同じような気持ちであったでしょう。イエス様の弟子たちは皆、イエス様からの招きに応じて…、すべてを捨てて、イエス様について来たのです。そうでしょ？どうぞ、皆さん、もしできましたら、マルコ 1:16-20 をお聞きください。そこには、かつて、漁師をしていたシモン・ペテロとアンデレ、それと、ヤコブとヨハネたちが、イエス様の弟子として召された時のことが記されてあります。『16 ガリラヤ湖のほとりを通られると、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師であった。17 イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」18 すると、すぐに、彼らは網を捨て置いて従った。19 また少し行かされると、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネをご覧になった。彼らも舟の中で網を繕っていた。20 すぐに、イエスがお呼びになった。すると彼らは父ゼベダイを雇い人たちといっしょに舟に残して、イエスについて行った。』

⇒いかがです？彼ら4人の弟子たちは、イエス様から弟子として招かれて、ほとんどすべてを捨てて、イエス様に従っていったでしょ？この4人だけではありません。かつて、取税人をしていたマタイが召された時も、マルコ 2:14 には、こう記されてあります、『イエスは、道を通りながら、アルパヨの子レビ(＝マタイの別名)が取税所にすわっているのをご覧になって、「わたしについて来なさい」と言われた。すると彼は立ち上がって従った。』って…。皆さん、分かってくださいますか？…彼ら弟子たちは皆、ほとんどすべてを捨てて、イエス様の招きに従って、イエス様に付いていったのです。…言わば、「献身」です。そうじゃありません？

実は、こういったみことばを見て、多くの牧師先生たちは、彼らは皆、フルタイムの献身…、つまり、今で言えば、牧師や宣教師になるための決心をしたのだ！という風に理解します。…しかし、本当にそうでしょうか？…実は、私は、イエス様が彼らになされた招きは、今で言う…、フルタイムの献身者になるための招きであったと同時に、すべてのクリスチャンがイエス様に対してなすべき「献身」であったと考えています。

どうか、そのことについて、今から説明をさせてください…。まず、今日のみことばに戻っていただきまして、イエス様がおっしゃられた 29-30 節のお言葉に注目してください。ここで、イエス様は、『29 …わたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、畑を捨てた者で、30 その百倍を受けない者はありません。今のこの時代には、家、兄弟、姉妹、母、子、畑を迫害の中で受け、後の世では永遠のいのちを受けます。』とおっしゃられました。

皆さん、ことと同じような招きを覚えておられません？…もし、できたら、マタイ 10:28 以降をお聞きくださいますか？…本当は、もう少し短く引用したいのですが、皆さんには、このみことばの文脈をよく理解していただきたいので、少し長く引用させていただきます。マタイ 10:28-39、『28 からだを殺しても、たましいを殺せない人たちが恐れるはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。29 二羽の雀は一アサリオンで売っているでしょう。しかし、そんな雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません。30 また、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。31 だから恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。32 ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。33 しかし、人の前でわたしを知らないと言うような者なら、わたしも天におられるわたしの父の前で、そんな者は知らないと言います。34 わたしが来たのは地に平和をもたらすためだと思っはなりません。わたしは、平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです。35 なぜなら、わたしは人をその父に、娘をその母に、嫁をそのしゅうとめに逆らわせるために来たからです。36 さらに、家族の者がその人の敵となります。37 わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。38 自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。39 自分のいのちを自分のものとした者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失った者は、それを自分のものとします。』

⇒いかがですか？…このみことばは、言わば、牧師や宣教師になるための心構えに関する教えでしょうか？それとも、永遠のいのち…、つまり、救いに関する教えでしょうか？…その答えは、言うまでもないでしょう。「魂も体も滅ぼせる御方を恐れなさい！…自分のいのちを自分のものとした者はそれを失い、イエス様のために自分のいのちを失った者は、それを自分のものとする…」とあるように、ここで言われているのは、明らかに、永遠のいのち…、つまり、救いに関することです。そうでしょ！

さて…、イエス様は、その文脈で、こう教えてくださいます。37-38 節、『37 わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。38 自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。』って…。このように、イエス様は、私たちが、両親よりも、息子や娘よりも、イエス様を1番に愛すべきことを願っておられます。

もちろん、この箇所だけではありません。ルカ 14 章で、イエス様は、ご自分について来ていた群衆に向かって、こうおっしゃられました、『26 「わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、そのうえ自分のいのちまでも憎まない者は、わたしの弟子になることができません。27 自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません。』(ルカ 14:26-27)って…。ここでも、イエス様は、大勢の者たちに向かって、ご自分のことを何よりも…、1番に愛すべきことを教えられたのです。…でも、一体どうして、イエス様が、そんなことを言われたか、皆さんは分かりますか？

その答えは、イエス様の正体が神だからです！…だって、そうじゃありません？この聖書のみことばは、真唯一の神様のことを、それこそ、「心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くして、神を愛せよ！」、つまり、あなたの全身全霊をもって、神を愛せよ！と教えるわけでしょ！もしも、イエス様が神ではなく、それ以

外の存在であったなら、イエス様がおっしゃられた「わたしのことを、他の誰よりも1番に愛しなさい！」という命令は、聖書の教えに反しないでしょうか？

どうぞ、皆さん、もう1度、今日のみことばの29-30節に注目してみてください。…ここで、イエス様は、「自分と福音(ここでは、並列に表現されてある)のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、畑を捨てた者で、その百倍を受けない者はありません。今のこの時代には、家、兄弟、姉妹、母、子、畑を 迫害の中で受け、後の世では 永遠のいのち を受けます。」ということをおっしゃっています。

ここで、イエス様は、『迫害』という言葉を使っておられることから分かる通り、「信仰ゆえに受ける苦しみ」について教えてください。そういった迫害にも屈しないで、イエス様のことを優先していった者が受ける報いは、「永遠のいのち」であるということをおっしゃいます。…つまり、ここで教えられてあることもまた、フルタイムの働き人になるための条件ではなくて…、救いに関することのみならずです。そうでしょ？…だって、そもそも、この話は、あの金持ちの青年が、「永遠のいのち」、つまり、救いを得るための方法について尋ねたところから繋がっている話じゃないですか？そうでしょ！

●救いの 必要性 を知った者たちが取るはずの行動

もう、ここに至るまでに、十分なほど、説明してきたように思います。しかし、もう少しだけ…、この救いの「必要性」を知った者たちが取るはずの行動について説明させてください。この聖書のみことばが教える、本当の救いについて、正しく理解できた者たちは、何よりも、その教えに沿った行動…、つまり、救いを優先するような行動を取ります。そうですね？…だから、イエス様は、「山上の説教」で、どう教えられました？…マタイ5:10以降、『10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。 11 わたしのために人々があなたがたをのしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。 12 喜びなさい。喜びおどりなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。…』(マタイ5:10-12c)と続いています。いかがです？このみことばも、今日のみことばとよく似ていると言いか、同じことを教えてくれていますか？

もう1つ、これと似たようなみことばを紹介させてください。マタイ 13:44-46、『44 天の御国は、畑に隠された宝のようなものです。人はその宝を見つけると、それを隠しておいて、大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買います。 45 また、天の御国は、良い真珠を捜している商人のようなものです。 46 すばらしい値うちの真珠の一つ見つけた者は、行って持ち物を全部売り払ってそれを買ってしまいます。』

⇒いかがでしょう？このみことばもまた、「天の御国」、つまり、救いについて教えられてあります。ここで、イエス様は、「救いの恵みという最高の宝を発見した者たちは皆、他の何を犠牲にしても、その最高の宝である救いを得ようと努力する！」ということをおっしゃっています。

確かに、先週の礼拝で私は、「救いを得るためには、自分の財産をすべて処分しなければならぬ！」というようなことを、イエス様も聖書のみことばも教えていない！」という趣旨の話をしました。皆さん、覚えてくださっていますか？…しかし、それと同時に、もしも、救いの必要性を本当に知った者たちは、他の何を置いても、救いを優先しようとするのではないのでしょうか？そうでしょ！…だから、先週学んだ、あの青年が、もしも、本当に救いの必要性について、正しく理解できていたら、例え、自分の全財産を失ってでも、救いを手にしようとしたはずで…、言うまでもなく、イエス様のお言葉は何も間違っていなかったのです。ま、もちろん、当然ですが…。

さて、今日のみことばの最後、31節で、イエス様は、『しかし、先の者があとになり、あとの者が先にな

ることが多いのです。』とおっしゃって、「信仰というものは、必ずしも、信仰歴や知識に比例するものではない！」ということをおっしゃっています。…と言いますのも、この当時、確かに、律法学者やパリサイ人たちは、イエス様の弟子たちや…、その当時、罪人呼ばわりされていた者たちと比べて、(旧約)聖書の理解や信仰歴において有利な点がありました。しかし、実際には、そういったような…、有利に働くべきことが、反対に、足を引っ張ってしまったり、信仰の障害になることも有り得ます。だからこそ、私たちは今、神様の前にへりくだって、みことばを学んでいかないとはいけません。

<励ましの言葉>

ここ3週ほどの礼拝で私たちが学んだことは、まず、永遠のいのち…、つまり、救いというものは、決して、簡単に得られるものではない！ということ。無論、私たち人間の努力やこの世の宗教によって得られるようなものでもありません。

救いというものは、ただ、神様のお働きによって…、また、神様の御恵みによって得られるものです…。だからこそ、私たちは、何よりも、神様に祈りつつ…、そうして、正しく、この聖書のみことばを解き明かしていく必要があるのです。

そうして、私たちは、軽々しく、救いを扱ったり、保証したりするのではなくて、日々、神様のみことばと自分自身の信仰や生き方を吟味するべきではないでしょうか？…今日、私たちが学んだみことばは、本当にイエス様を信じて救われた者たちは皆、イエス様を1番に愛そうとし…、神様のみことばに沿って歩んでいこうとします。…何度も言いますように、私たちが神様に喜ばれるような行ないをするから、神様が救ってくださるのではない！神様が私たちを救ってくださって、神様によって変えられたから…、また、聖霊なる神様が、救われた私たちの内側から助けてくださるから、私たちは、神様に喜ばれることをなしていきましょう。どうか、日々、この神様の恵みに感謝しつつ…、この神様に喜ばれる歩みを、今週も続けていってくださいように、お勧めいたします。

そうして、まだ、イエス様を信じておられない皆さん。私たち人間にとって、1番大切なもの…、最も価値あるものとは何でしょう？聖書は、それこそが救い…、つまり、永遠のいのちであると教えます。天の神様は、あなたが、1日も早く、この救いを手にしてくださることを願っておられます。どうぞ、真の神であられ、また、私たちにとって唯一の救い主であられるイエス・キリストを信じ受け入れていただきたいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。